

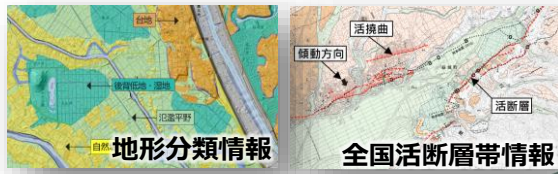
電子国土基本図について

整備・更新・3次元化へ

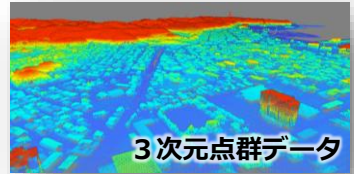
国土地理院

国土地理院では、国土を「測る」、「描く」、「守る」、「伝える」の役割を通じて、デジタル公共インフラである国土情報基盤を着実に整備・更新・維持管理し、正確性・最新性を確保するための取組を重点的に進めています。

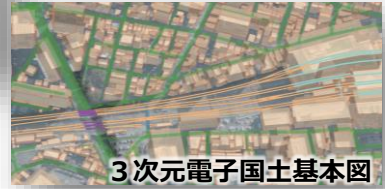
自然災害リスクの把握



精密な地形データの整備



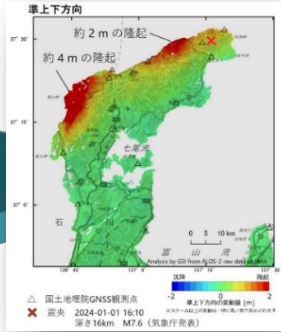
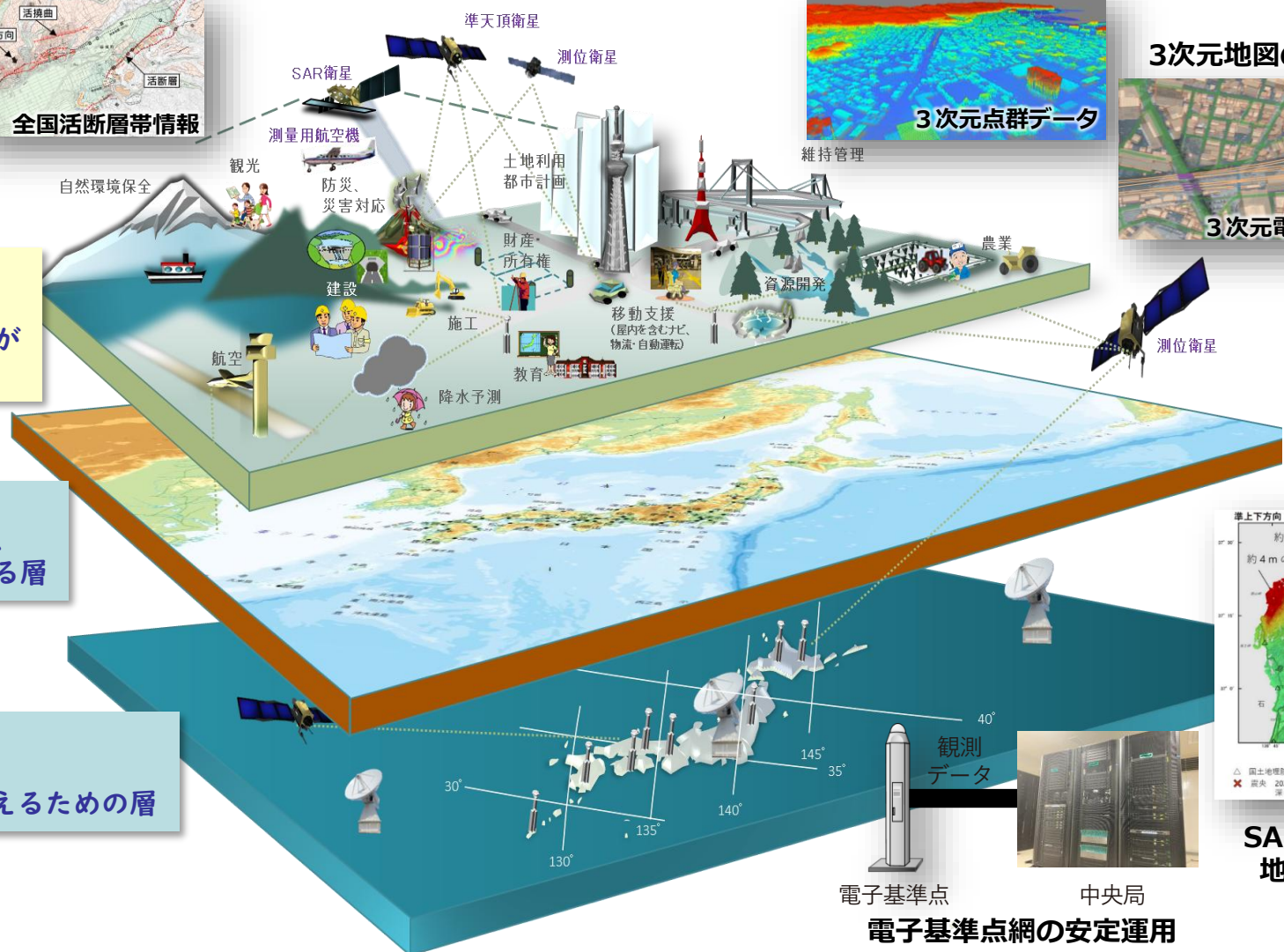
3次元地図の全国整備



(第三層)
第一層と第二層を基に
経済社会活動や災害対応が
実現される層

(第二層)
国土の姿を正確に表し、
全ての地図の基礎となる層

(第一層)
位置の基準を定め、
正確な位置情報を支えるための層



SAR衛星による地殻変動把握

電子国土基本図とは国土地理院が整備を実施している我が国の国土の現況を統一した規格で表し、全ての地図の基礎となる地図（基本図）である。

- ・平成21年度から従来の「2万5千分1地形図」に代わる国の基本図として整備
- ・「地図情報」、「オルソ画像」、「地名情報」の3項目で構成。
- ・令和3年度に「公的基礎情報データベース（ベース・レジストリ）」になる。
- ・令和7年度に「災害対応基本共有情報（EEI）」に指定。

地図情報

基盤地図情報に、国土管理等に必要な構造物、植生等の項目、名称等を加え各種地図の基本となる地図として整備



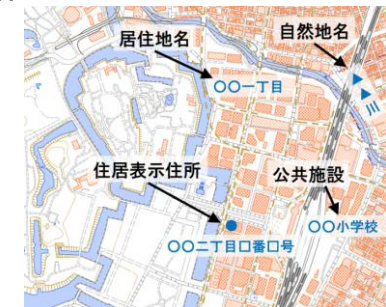
オルソ画像

地図と重ね合わせられるように、位置や角度を調整した画像で、地図情報の更新資料としても活用



地名情報

位置を検索する鍵となる基本的な情報として居住地名、自然地名、住居表示住所、公共施設等の情報を整備



利用シーン



行政の効率化

国土交通省



まちづくり指針(渋谷区)

災害対応、
復旧活動の支援



tenki.jp (日本気象協会)

国民生活の向上

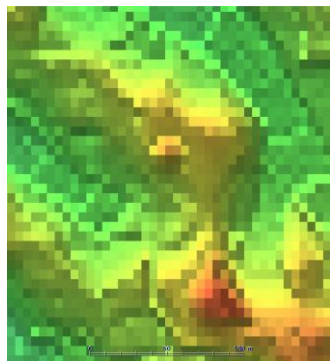
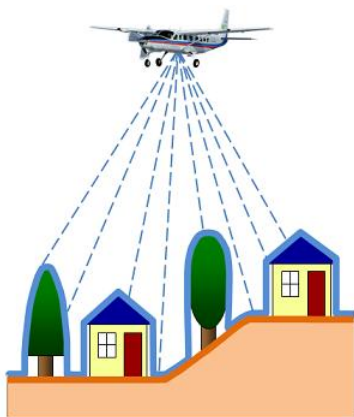


カーナビ等での活用

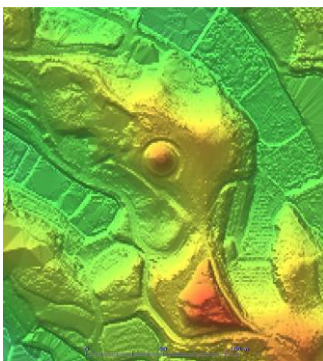
参考 数値標高モデル(DEM)・高精度標高データ(点群データ)の整備

数値標高モデル (DEM) の整備

- 航空レーザ測量、空中写真測量等により、数値標高モデルを整備
数値標高モデル・・・**1mメッシュDEM**、5mメッシュDEMを整備中
- 基盤地図情報としてインターネットから提供



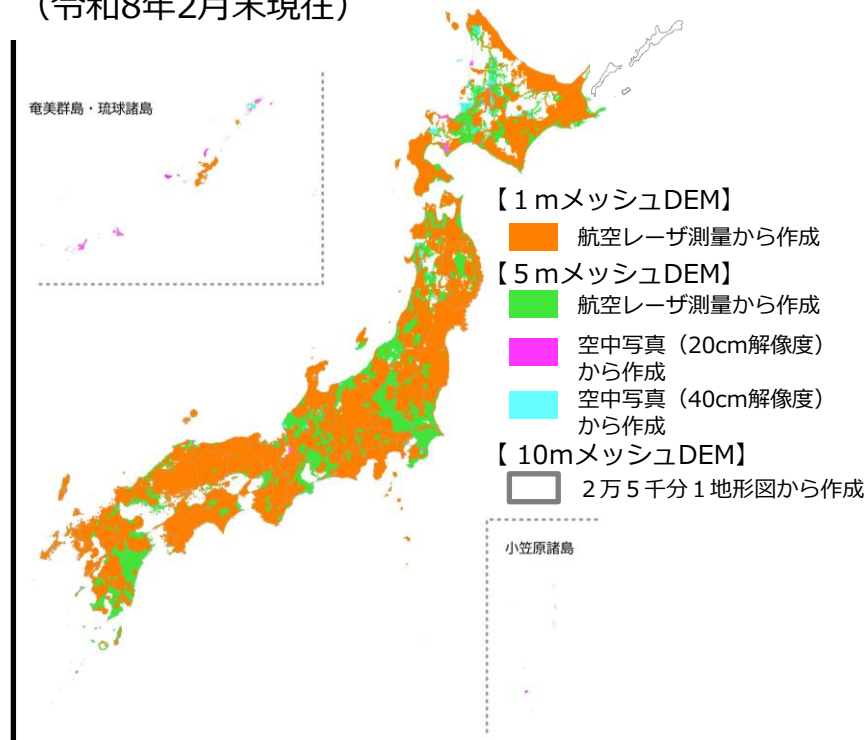
5mメッシュ (標高)



1mメッシュ (標高)

陰影段彩表示での見え方の違い
(高松塚古墳)

数値標高モデルの整備範囲 (令和8年2月末現在)



高精度標高データ (点群データ) の整備

- 航空レーザ測量データを基に作成し、地表面に加えて建物や樹木の高さがわかる。
- それぞれの計測点には、緯度・経度・高さに加えて、色情報 (RGB値) 等の情報を持つ。
- 浸水・景観など各種シミュレーションの高精度化により、防災・減災、復旧・復興及び都市計画立案等に資することを期待。



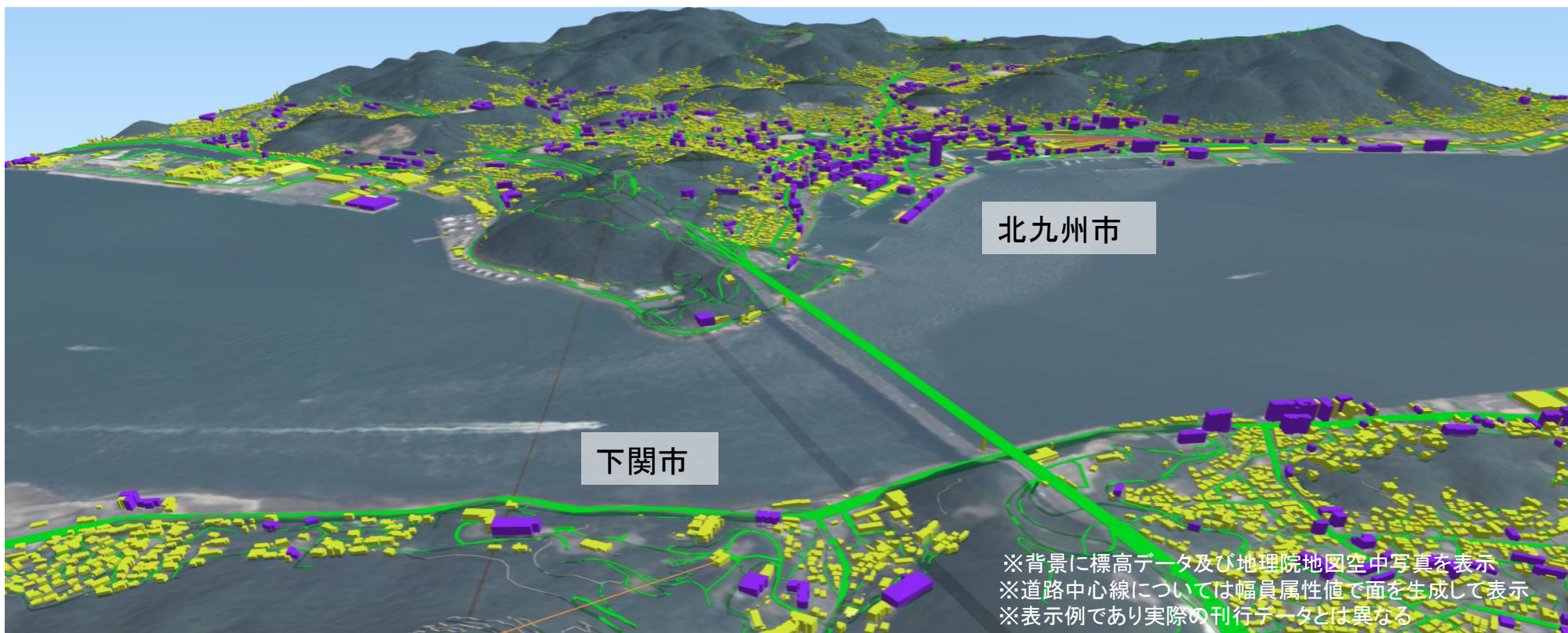
RGBで表示 (全計測点) : 岩手県釜石市周辺

国土全域で

建物・道路・鉄道を

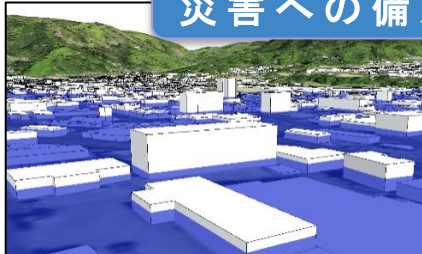
2028年度までに

3次元化



整備効果

災害への備え



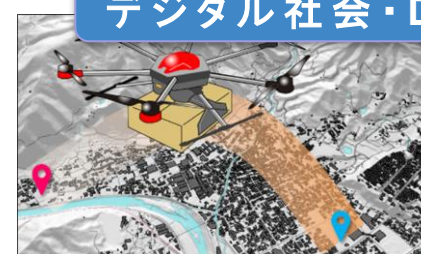
地形や建物を考慮した浸水シミュレーション

被災からの復興



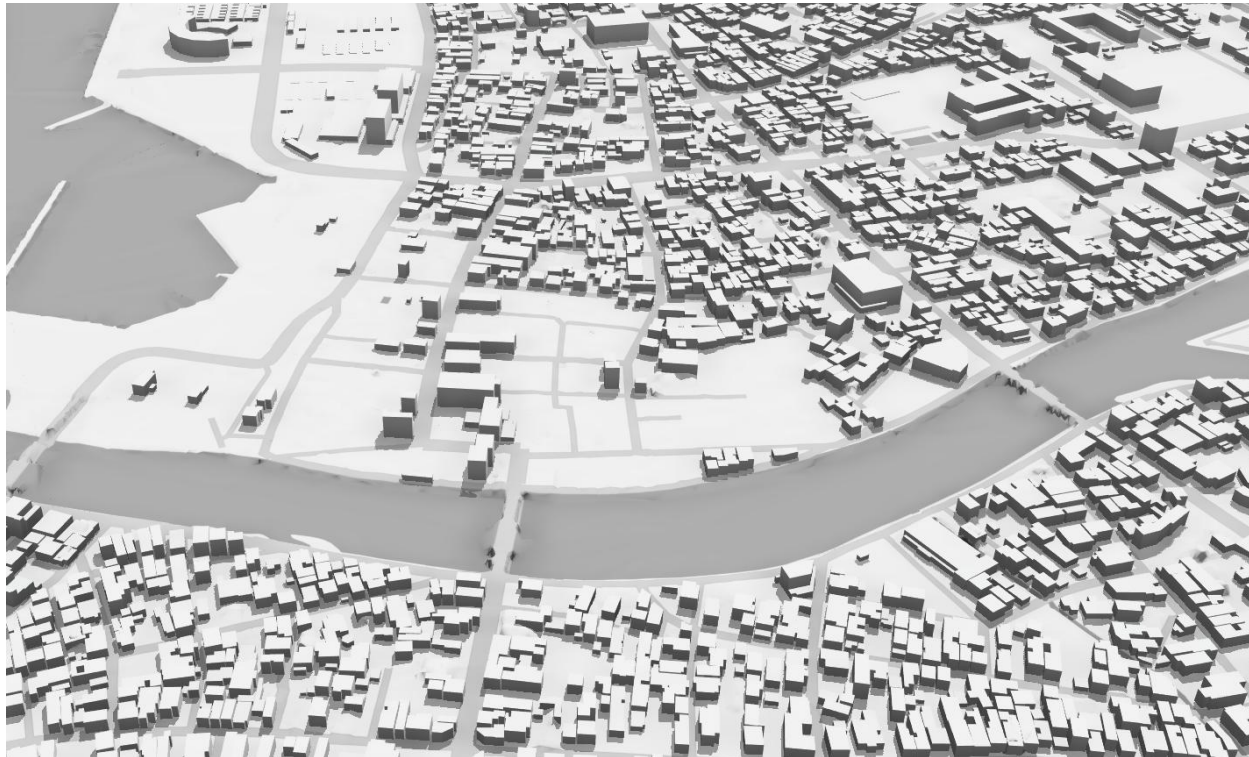
様々な復興計画等のシミュレーションを行うベースマップ

デジタル社会・DX促進



ドローン物流などの運行支援

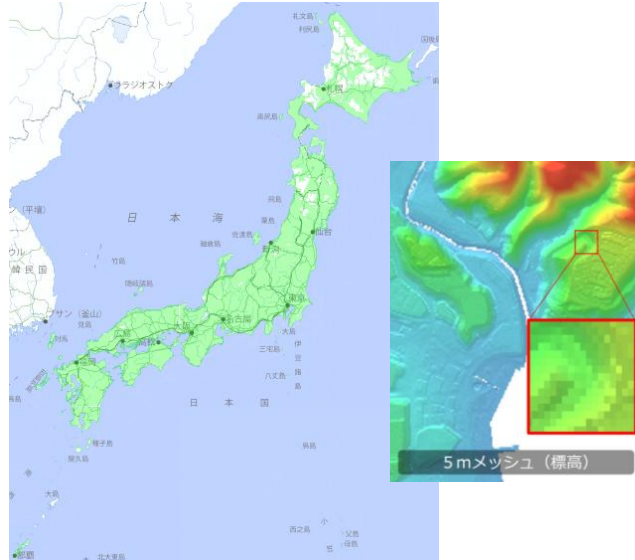
- (電子国土基本図→PLATEAUの例)
復旧・復興に資するため、能登半島地震による被災自治体13市町における3次元電子国土基本図の建物データをPLATEAU VIEWに掲載し、能登半島地震後の建物の状況を3次元で閲覧できるよう対応。
- (PLATEAU→電子国土基本図の例)
北海道更別村のPLATEAUデータを活用して、3次元電子国土基本図の初期整備に活用。



PLATEAU VIEWで表示した震災後の輪島地区

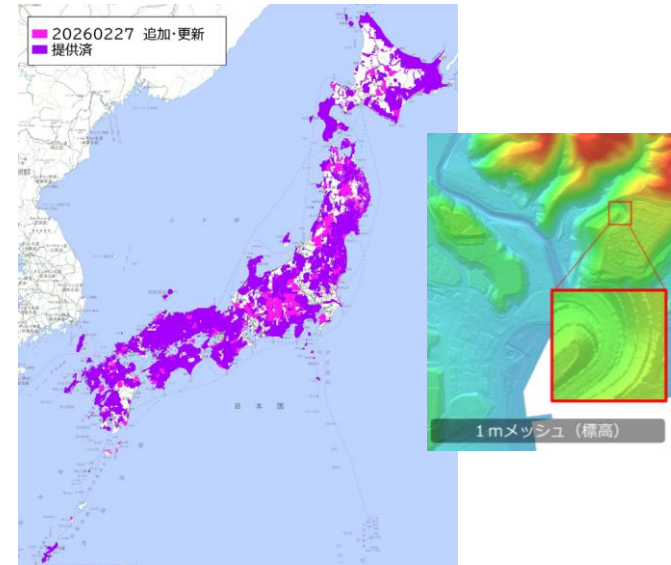
5mメッシュ標高データ

全国の航空レーザ測量成果を集約



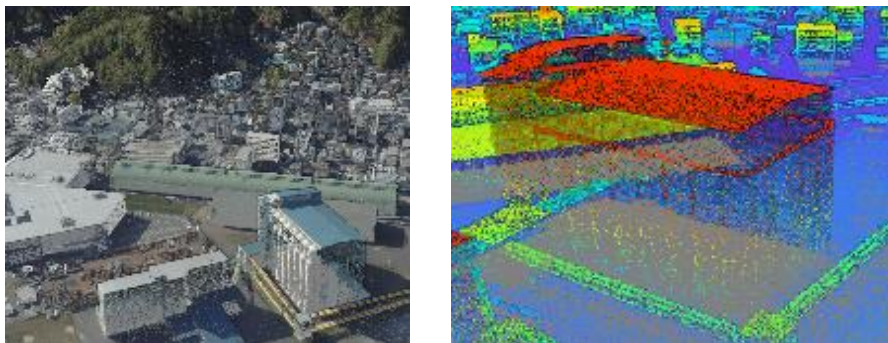
1mメッシュ標高データ

令和5年11月 提供開始、
令和8年2月 提供範囲拡大



点群データ

令和7年2月 提供開始、
令和7年11月 提供範囲拡大



3次元電子国土基本図(試作データ)

令和7年3月 公開

